

# 第 11 回 令和 4(2022)年度神奈川県看護協会会員施設との合同防災通信訓練 実施結果 報告書

この訓練は、災害発生後、県内の被災した施設が神奈川県看護協会へ被害状況を連絡し、災害支援ナースを要請するための通信訓練として、平成 24 年度より実施しています。

当協会は、県内で震度 6 弱以上の地震等の大規模災害発生時、または神奈川県災害対策本部が設置された場合、必要に応じて協会内に災害対策本部を設置し、県内施設の被災情報の収集及び支援要請を受け、災害支援ナースを派遣します。(神奈川県看護協会 災害時看護支援要綱より)

今年度も、39 の会員施設にご参加いただき、神奈川県内で震度6の地震の発災を起点に、各施設が想定した被災状況の連絡及び災害支援ナースの要請を受け、看護協会が災害支援ナースの派遣調整を行い、災害支援ナース派遣決定者リストを送信するまでの訓練を 3 日間にわたって実施いたしました。

## 1. 訓練概要

- 1) 目的 ①神奈川県内で大規模災害が発生した際に、災害支援ネットワークシステム(レベル 1)を運用し、支援活動に役立てる。  
②今後の課題を明確にし、災害支援ネットワークシステム(レベル1)を改善・強化する。
- 2) 開催日 令和 4 年 9 月 12 日(月)～9 月 14 日(水) 3 日間
- 3) 想定災害 都心南部直下地震 (地震規模 マグニチュード 7.3)
- 4) 参加者 ①神奈川県看護協会  
②会員施設 39 施設(会員施設数 1,264 施設のうち 3.1%) 前年比:1.5%増 \*昨年度参加:20 施設  
③災害支援ナース登録者(330 名) \*災害支援ナース登録者数は開催日付の人数
- 5) 結果 派遣決定人数 92 名(昨年 27 名)、派遣先 26 か所(12 カ所)

## 2. 参加施設内訳(合計 39 施設)

### 1) 施設種別 ( )内昨年度

施設種類	施設数
病院	22(13)
クリニック・診療所	4(1)
訪問看護ステーション	6(5)
介護保険施設	7(1)

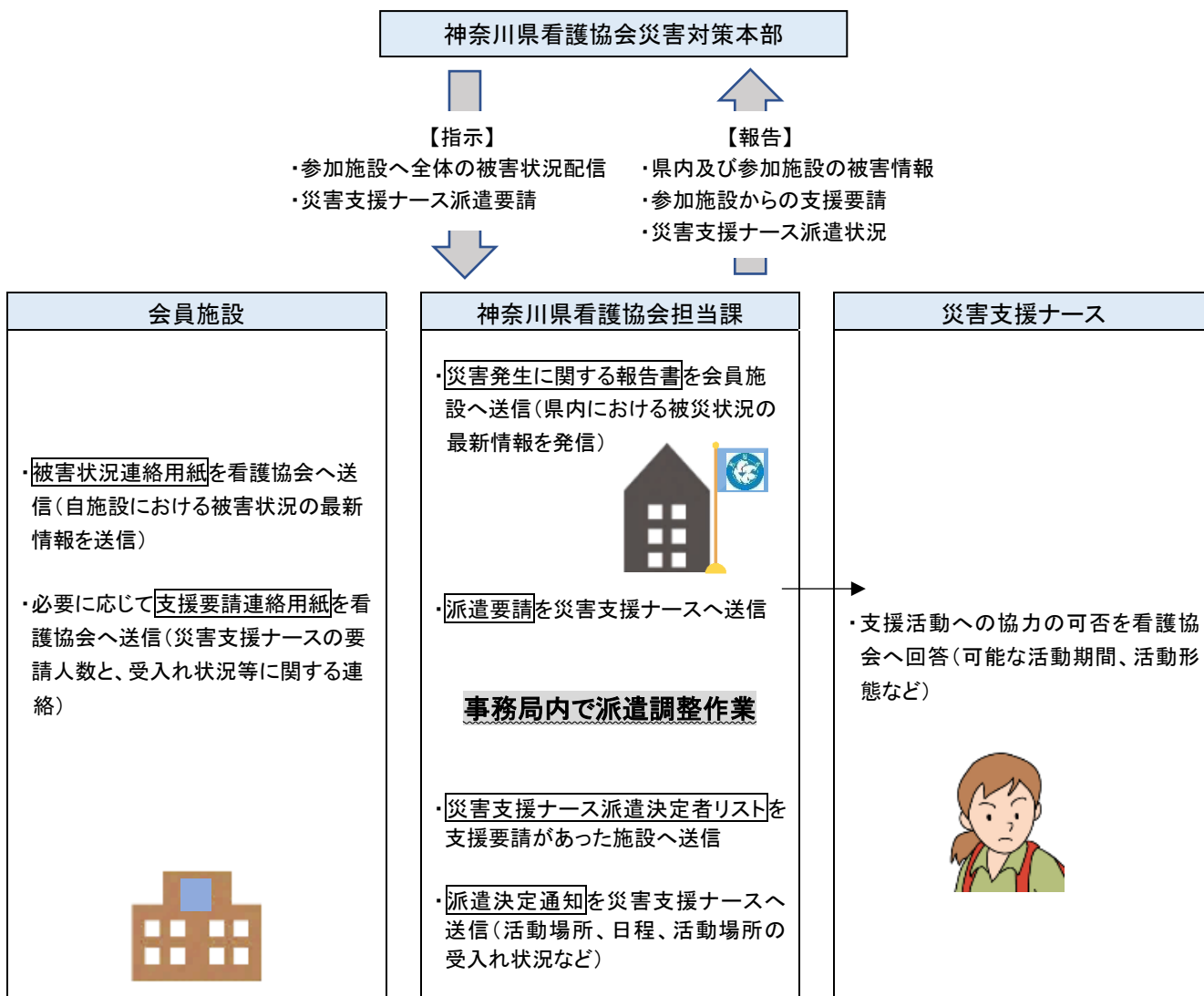
### 2) 通信手段事前申請 ( )内昨年度

通信手段	施設数
Eメール	32(9)
FAX	7(11)

### 3) 支部別

支部	申込
川崎	6
横浜北	5
横浜西	5
横浜南	5
横須賀	3
相模原	3
小田原	5
湘南	5
県央	2

### 3. 通信訓練の流れ（災害支援ナースネットワークシステム）



4. 訓練経過と結果

( )内昨年度

訓練経過		結果	
1)	・神奈川県看護協会は、都心南部直下地震により震度 6 強の被災をしたため、災害対策本部(以下 災害対策本部)を設置した。	訓練当日	
2)	・神奈川県看護協会担当課は、災害対策本部の指示により、県内及び神奈川県看護協会内の被害情報を収集し、参加施設へ最新の情報に更新して発信した。	5 報(5 報)	
3)	・神奈川県看護協会担当課は、災害対策本部の指示により、県内及び神奈川県看護協会内の被害情報を、日本看護協会へ発信し、災害支援ナースの支援要請について	2 報(実施せず)	
4)	・参加施設は、発災後、自施設の被害状況を確認し、神奈川県看護協会へ最新の被害情報に更新して報告した。	116 件(37 件) 第 1 報 4 施設 第 2 報 7 施設 第 3 報 12 施設 第 4 報 8 施設 第 5 報 6 施設 計 37 施設	
5)	・参加施設は、職員の安否確認、被災状況を踏まえ、神奈川県看護協会へ支援を要請した。	災害支援ナースを要請	29 施設 (12 施設)
		物資を要請	0 施設 (0 施設)
6)	・災害対策本部は、神奈川県看護協会担当課へ、災害支援ナースの派遣要請を指示した。	2 回(1 回)	
7)	・神奈川県看護協会担当課は 5)を受け、災害支援ナースへ派遣要請した。	330 名(264 名)	
8)	・災害支援ナースは 6)を受け、支援活動の要請に対する回答を神奈川県看護協会へ返信した。 送信メールエラー 20 件、FAX エラー 1 件 ※146 名の回答の内時間外回答 6 件	活動可	146 名(124 名) 59 (71)
		活動不可 無効・不備回答	64 17 (50) (3)
9)	・神奈川県看護協会担当課は、支援活動が可能な災害支援ナースと、支援を必要としている施設との派遣調整作業を行った。	/	
10)	・神奈川県看護協会担当課は、支援を要請した施設へ、災害支援ナース派遣決定者リストを送信した。		
11)	・神奈川県看護協会担当課は、支援活動が可能な災害支援ナースへ、派遣決定通知を送信した。		

5. 派遣調整結果

( )内昨年度

	支援要請	派遣決定
施設数(活動場所)	29 か所(12 か所)	26 か所(12 か所)
派遣期間	9/12~10/15	9/16~10/15
延べ人数	1,189 人(150 人)	346 人(101 人)
1 日平均派遣人数	35.0 人(18.7 人)	11.5 人(14.4 人)

※派遣要請施設に災害支援ナースを派遣できなかった理由

- ・災害支援ナースの派遣可能日以前に支援要請があったため(1 施設)。

※災害支援ナースが派遣決定に至らなかった理由

- ・支援要請の日程と、災害支援ナースが希望する活動期間が合わなかったため(5 名)。

1) 災害支援ナース派遣要請施設数

派遣要請時期	施設数
派遣要請全施設数	29
派遣期間内の要請施設数	13
派遣期間前を含む要請施設数	14
派遣要請無しの施設数	1
派遣期間前のみ要請施設数	1

2) 災害支援ナース派遣要請延べ人数

派遣要請時期の延べ人数	要請数
派遣要請全延べ人数	1,189
派遣期間内の要請延べ人数	1,103
派遣期間前を含む要請延べ人数	80
期間前のため派遣できなかった人	6

3) 災害支援ナース派遣要請があった施設

施設種類	施設数
病院	17
クリニック・診療所	3
訪問看護ステーション	3
介護保険施設	6
合 計	29

4) 災害支援ナースからの回答

回答種別	施設数
全回答	146
協力できる	59
派遣	54
派遣に至らなかった*	5
協力できない	64
不備	17
時間外回答	6

5) 災害支援ナース派遣延べ人数

派遣内訳	派遣延べ人数
派遣全延べ人数	346
災害支援ナース*	243
ダミーナース	103

\*災害支援ナース 13 名が複数派遣

\*施設要請日と協力できる日の対応ができず派遣に至らなかった

6) 1日当たりの平均派遣人数

	全要請	派遣期間要請	派遣
1日当たりの平均派遣人数	35.0	36.8	11.5

6. 災害支援ナースアンケートより

1) 支援要請方法

	組織を通して支援要請	個人に直接支援要請	その他	どちらでもよい
人数	33	17	4	12
%	50.0	25.8	6.1	18.2

2) 派遣要請 派遣決定等 使用した様式について

	この様式でよい	改善して欲しい	無回答
人数	57	7	2
%	86.4	10.6	3.0

## 7. 評価

### 【施設の被災情報】

今回の訓練で参加施設から提供された被害状況連絡用紙は第1報から5報迄を合わせ、116件となり昨年の3倍となり時間の測定はできなかったが、情報整理に時間を要した実感がある。今年度、神奈川県看護協会の災害対策本部にEMISからの情報収集を導入した。EMISでは訪問看護ステーションや介護保険施設などの情報を確認することは出来ないが、病院施設の情報収集は可能であることから、病院施設の手間を少しでも軽減できるのであればEMISと重複する情報は除き、記載内容の改訂を図れると考える。また、被災施設が増えるほどに情報量が増すことを考えると、情報処理に要する人手も必要である。対策として、提供する側と収集する側双方の効率性、正確性が図れるツールの開拓、例えばアクセスやグーグルドライブ機能を導入などの検討が求められる。来年度に向けて、報告用紙の選択も残しつつも、QRコードから各施設が手間なく情報提供できる方法に改訂を検討する。

### 【施設からの派遣要請】

災害支援ナースの要請については、災害支援ナースがボランティア活動で、職場の許可や家庭内の調整のうえ安全を確認し出勤することから、今回も派遣調整は発災後4日目以降と案内していた。しかし実際には発災当日からの要請や、派遣不能である9/15までに延86人の派遣要請があり、現場は発災直後から支援要請をしたい状況であることが伺える。

派遣依頼のピークは9/16～9/22と発災後10日前後に集中していた。大規模施設では「支援要請は不要」とした施設が1施設あった。しかし、小規模施設や訪問看護ステーションの要請は多く、最大28日という長期に渡る要請を希望する施設もあった。各施設からの災害支援ナースの要請数は、延1189人で、実に昨年の7.9倍の要請であった。発災時、災害支援ナースの存在も限られた資源の一つとなる。調整役となる看護協会としては、公平性を念頭に、要請施設の被災状況(特に人的被害、物的被害)を鑑み災害支援ナースの派遣決定を検討していく。

### 【災害支援ナースの派遣調整】

8月末現在神奈川県看護協会に登録している災害支援ナースは330人おり、訓練開始後、全員へ支援要請の連絡を行った。今回の訓練では、330人中146人(約44%)から回答を得ることができた。多数の災害支援ナースは勤務中でありタイムリーな回答は望めないため、派遣要請第1報は9/13 10:00に発信し、回答期限を24時間後に設けた。結果は派遣に至った災害支援ナースは54人、派遣に協力できなかった災害支援ナースは64人であった。残念なのは、施設の要請日と協力できる日が合致せず派遣に至らなかった5人、書類の記載漏れで派遣に至らなかった17人、時間外回答の6人の存在である。合計すると派遣決定者の半数となる。災害発生時は派遣要請に時間制限はない。書類の記載漏れの内容を見ると派遣期間の記載が無いもの、災害支援ナースの登録番号が無いものが多数を占めた。設問は簡易に回答できる内容と考えるが、落としやすい項目の文字の大きさや、強調など送信前の再確認を促す工夫を検討したい。一部の意見に、スマホで開けない、スマホで入力しにくいというものがあったが、逆にスムーズに入力できたとの意見もある。携帯のメール機能の使用が多くなることが予測されるため今回の意見を参考に看護協会内で派遣要請形式を精査したい。

### 【施設要請・災害支援ナースのマッチング】

今年度は参加施設が増えたことに比べ、活動可能な災害支援ナース数が減少したこともあり、マッチングにかなりの時間を要し、従来2時間弱で完成するマッチングが今年は4時間近い時間がかかってしまった。派遣要請が多いことから、災害支援ナースに向けて支援要請を2回出したが、それでも活動可能な災害支援ナースが確保出来ず、訓練としてダミー看護師を作成し派遣調整を行った。

また、1日のみというように、3泊4日の基本パターン以外の要請をする施設があることや、災害支援ナースも、1泊2日、2泊3日の出勤を記載してくる人もいたが、今回はできるだけマッチングを試みた。実際の派遣要請を進めるにあたっては、災害支援ナース、施設側にも3泊4日の基本枠組みから選択いただくなど日程調整がしやすくなるような提案をすることも一案である。また、貴重な出勤希望を活かせるよう、最近用いられることの多くなったアプリの活用など、マッチング方法の効率化を図れる方策と考える。直ちに災害支援要請へのマッチングに活用できるものか検討が必要ではあるが、通信訓練への参加施設、災害支援ナースの登録人数が増加した際、それに対応できるようなシステム作りを構築することが急務である。

### 【タイムスケジュール】

訓練の進行については、3日目の午後からの進行が想定スケジュールから大幅に遅れた。分析すると①災害支援ナースの回答メールの確認に時間を要したこと(「協力できる」「協力できない」「不備」)、②災害支援ナースの派遣決定者リストを各施設へ送信する作業と、派遣決定通知を災害支援ナースへ送信する作業が同時進行出来なかったこと、③災害支援ナースへの派遣決定通知内容は施設ごとに同じ内容で提供するという昨年の好取組が活かされず各個人あての内容を作成したことも時間超過の一因となった。また、④課内の災害支援ナース派遣活動の経験者は1人で、他メンバーで3

日間の訓練を経験した者がいなかったこと。さらに今年度は神奈川県看護協会の災害支援対策本部の運営と訓練を連携させながら合同防災訓練を進行したことで、管理職が本部に出向き⑤災害支援ナースの派遣調整のマネジメント力が低下したことも誘因となった。⑥参加施設や災害支援ナースの増加により処理する情報に比べ人手が少ないことも進行遅滞の要因ではあるが、訓練終了が21時近くとなったことは想定外の事態であり大変反省している。しかし、発災時合同通信訓練を熟知した者が出勤しているとは限らない。「いざ」に備え誰でもが対応できるよう、他課の人材活用も考慮しつつ、詳細な手順書、チェックリスト及びアクションカードの作成が必要と痛感し、早速取り掛かることを確認した。

会員施設から時間管理についてのご意見をいただいたが、「ここで訓練を終了する」という明確な情報発信の判断など柔軟な対応が必要だった。訓練施設や災害支援ナースが訓練の進捗に不安を抱かないよう、訓練が予定通りに進行しない場合は、途中の状況説明や、訓練の時間管理を行っていく。

#### 【災害支援ナースへのアンケートより】

今年度は初めて災害支援ナースが訓練や災害支援活動についてどのような思いがあるかアンケート調査を行った。始めて通信訓練に参加する災害支援ナースは全参加者の約45%であった。

一部改訂していた派遣要請通知の様式は全体の86%がこのままで良いとの返答で、改訂した内容は今後も活用できると評価する。一部の意見に「スマホで書式が開けなかった」「入力しにくい」というものがあつたが、一方でスムーズに入力できたとの意見も伺った。今後も携帯電話のメール登録が多くなるのが考えられるため、ご意見を参考に神奈川県看護協会にて検証し対応を考えたい。

また、昨年度の災害支援ナースフォローアップ研修で、災害時施設の許可を得ることに困難さを感じているとの意見が多かったことから、派遣要請の方法をアンケートで問いかけたところ「組織を通して支援要請」が50%、「その他(組織と個人両方に支援要請)」が6.1%であり、合わせると56%が組織を通しての派遣を希望していた。他都道府県は、災害発生時、各施設を通じて災害支援ナースの要請を行っており、災害支援ナースへ個人的に連絡するのは神奈川県独自の方法である。発災し混乱する各組織への負担を軽減するための方策ではあるが、災害支援ナースの派遣には組織の業務と切り離して考えられない現実もある。災害が発生した際、神奈川県看護協会が災害支援ナースへ出動要請したことを、各施設の方々にもお知らせすることが必要だと考える。他都道府県は施設が災害支援ナースの出動要請を受け、施設から出動可能な看護師を調整し看護協会へ連絡いただくことを聞いているが、これについては、委員会や理事会を通じ各施設のご意見を伺いながら検討したい。

研修は終わっても実際の出動経験が無い災害支援ナースが大半を占めている。自分にどのように要請がくるのか、支援決定までのプロセスを体感できる機会は年2回の通信訓練のみであるので、来年度も合同通信訓練に参加いただけるよう案内していく。

#### 【その他】

神奈川県看護協会の災害対策本部を立ち上げ、連携を取りながら訓練を実施した。当課単独での進行とは異なり、看護協会本部の情報収集や神奈川県災害対策本部との連携・調整を想定しながらの災害支援ナースの派遣活動を改めて実感できた。本来、同時進行で進む災害支援ナースへ提供する「貸出し物品の調整」や「交通手段を含めた現地の情報収集」、また「派遣に関わる保険手続き」など今回は手つかずで終わってしまった。今後、看護協会他課職員との業務調整をし、協力を得ながら進行することが求められる。

実際の発災では、停電により、メールやFAXの通信機能に大幅な支障が生じる。参加施設や災害支援ナースから停電時の情報交換が可能かのご意見があつたが、神奈川県看護協会では簡易発電機でパソコンを稼働できる電力を確保している。しかし、通信機能のEメールは通常の1/3以下におち込むことが予測されている。今回は、あくまでも電気があると想定しての訓練であった。アプリの活用で効率的な情報管理や派遣調整を進める一方で、電源が断たれ災害支援ナースの調整が手作業となることも想定し、各フェーズに応じた対応を用意する必要があると感じている。日本看護協会や行政とも情報交換をしながら、災害支援ナースの派遣要請方策について検討を重ね、来年の合同通信訓練に繋げていきたい。

#### 8. アンケート集計結果(別紙参照)

最後に今回ご参加いただいた各施設の皆様、災害支援ナースの皆様にご心より感謝申し上げます。  
今回の結果を、システム改修と手順改定に繋げて参ります。

令和4年9月30日

医療安全・災害医療・感染症対策課